

# 社会科 地理分野《第1学年》年間指導計画 (55時間分)

## 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

## 社会科 地理分野の目標

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、主は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準			小学校との関連
4	世界の姿 6時間	世界の地域構成を取り上げ、位置や分布などに着目して、課題を追求したり解決したりする活動を通して、①緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し、理解する。②世界の地域構成の特色を大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。③世界と日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という三つの資質能力を身に付ける。	1. 私たちの住む地球を眺めて 2. いろいろな国と位置 3. 緯度と経度 4. 地球儀と世界地図の違い 5. 章の学習を振り返ろう	知	緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し、理解している。	・私たちの国土 (5年) ・世界の中の日本 (6年)	
4				思	世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。		
5				主	世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
4	日本の姿 6時間	日本の地域構成を取り上げ、位置や分野などに着目して課題を追求したり解決したりする活動を通して①我が国の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し、理解する。②日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。③日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という三つの資質能力を身に付ける。	1. 世界の中での日本の位置 2. 日本と世界各地との時差 3. 日本の領域とその特色 4. 都道府県と県境所在地 5. 章の学習を振り返ろう	知	我が国の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。	・私たちの国土 (5年)・わたしたちの生活と食料生産 (5年)・わたしたちの生活と工業生産・情報社会とわたしたち (5年)	
5				思	日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。		
6				主	日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
6	人々の生活と環境 9時間	場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して課題を追究したり解決したりする活動を通して、①人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えてたりすることを理解する。また世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解する。②世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。③世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という三つの資質能力を身に付ける。	1. 世界のさまざまな生活と環境 2. 暑い地域の暮らし 3. 乾燥した地域の暮らし 4. 温暖な地域の暮らし 5. 寒い地域での暮らし 6. 高地の暮らし 7. 世界各地の衣食住とその変化 8. 人々の生活と宗教の関わり 9. 章の学習を振り返ろう	知	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えてたりすることを理解している。また世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。	世界の中の日本 (6年)	
7				思	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。		
7				主	世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。		

7 8 9	世界の諸地域	<p>アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決する活動を通して、①世界各地で顕在化している地域的課題は、それが見られる地域の地域的特色を受けて、現れ方が異なることを理解する。②各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観するし、理解する。③各州で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する。④世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という四つの力を身に付ける。</p>	<p>1. アジア州 7時間 2. ヨーロッパ州 6時間 3. アフリカ州 3時間 4. 北アメリカ州 5時間 5. 南アメリカ州 4時間 6. オセアニア州 4時間 7. 章の学習を振り返ろう 1時間</p>	<p>知 思 主</p>	世界各地で顕在化している地域的課題は、それが見られる地域の地域的特色を受けて、現れ方が異なることを理解している。 各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観するし、理解している。	世界の中の日本(6年)
11					各州で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	
12					世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。	
2	身近な地域の調査 4時間	<p>場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、①観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。②地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。③地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。④地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という四つの資質・能力を身に付ける。</p>	<p>1. 調査テーマを決めよう 2. 調査方法を考えよう 3. 野外調査を実行しよう 4. 調査を深めて結果を発表しよう</p>	<p>知 思 主</p>	観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。	わたしたちのまちのようす(3年)
					地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という四つの資質・能力を身に付けている。	

# 社会科 歴史分野《第1学年》年間指導計画 (50時間分)

## 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

## 社会科 歴史分野の目標

- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようする。
- 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、主は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準	小学校との関連
5	歴史の流れと時代区分 3時間	①、小学校で学習した内容をもとに課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させ、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。 ②小学校での学習を踏まえて、歴史上の人物や文化財、出来事などと時代区分の関わりなどについて考察し表現させる。	1. 歴史をたどろう 2. 年代の表し方と時代区分	知 小学校で学習した内容をもとに課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させ、資料から歴史に関する情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 思 小学校での学習を踏まえて、歴史上の人物や文化財、出来事などと時代区分の関わりなどについて考察し表現している。 主	
6	人類の登場から文明の発生へ 6時間	①古代文明や宗教が起きた場所や環境などに着目して文明や宗教の特徴を比較して考察し、世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に築いた諸文明には、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展、都市や巨大建造物、身分の分化などの共通する特徴があることに気づかせる。 ②ギリシャ・ローマ文明の政治制度について、現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解させる。	1. 人類がたどった進化 2. 世界各地で生まれる文明 3. 東アジアの文明の広がり 4. ギリシャとローマの政治と文明 5. 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生	知 世界の古代文明や宗教のおこりをもとに、世界の各地で文明が築かれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 思 古代文明や宗教が起きた場所や環境に着目して、文明や宗教の特徴を比較して考察し、共通点に気付くなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 主 世界の古代文明や宗教のおこりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	縄文のむらから古墳のくにへ
10	東アジアの中の倭(日本) 5時間	①日本列島において狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していくことや、自然崇拜や農耕儀礼などにもとづく信仰が後の時代にもつながっていることに気づかせる。 ②古墳の大きさやその分布をもとに、ヤマト王権の勢力の広がりを大きくとらえ、東アジアとのかかわりについては、大陸から移住してきた人々のわが国の社会や文化に果たした役割に気づかせる。	1. 縄文時代を眺めてみよう 2. 縄文から弥生への変化 3. ムラがまとまりクニへ 4. 鉄から見えるヤマト王権	知 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰。大和政権による統一の様子と東アジアとのかかわりなどをもとに、東アジアの文明の影響を受けながらわが国で国家が形成されていったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 思 農耕の広まりや生産技術の発展に着目して、農耕広まりが生活や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 主 日本列島における国家形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	縄文のむらから古墳のくにへ

10	中国にならった国家づくり 6時間	<p>①聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を大きくとらえさせ、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解させる。</p> <p>②大陸からもたらされた仏教が、わが国の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気づかせ、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解させる。</p>	<p>1. 奈良時代を眺めてみよう 2. ヤマト王権と仏教伝来 3. 摺れ動くアジアと倭国 4. 律令国家での暮らし 5. 大陸の影響を受けた天平文化</p>	<p><b>知</b> 律令国家の確立に至るまでの過程をもとに、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p><b>思</b> 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>主</b> 律令国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	天皇中心の国作り
10	展開する天皇・貴族の政治 4時間	<p>①摺闇政治をもとに平安京における貴族の政治の特色をとらえさせる。</p> <p>②東アジアの情勢の変化によって、わが国でも政治と文化において独自の動きが見られるようになったことに気付かせる。</p> <p>③日本独自のかな文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気づかせ、文化の国風化が進んだことを理解させる。</p>	<p>1. 平安時代を眺めてみよう 2. 権力を握った貴族たち 3. 唐風から日本風へ変わる文化</p>	<p><b>知</b> 摺闇政治をもとに、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p><b>思</b> 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>主</b> 古代の文化と東アジアとの関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	天皇中心の国作り
1	武士の世の始まり 6時間	<p>①武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解させる。</p> <p>②武家政治の特徴を考察し、天皇や貴族の政治との違いという観点から、古代から中世への転換の様子に気づかせる。</p>	<p>1. 鎌倉時代を眺めてみよう 2. 各地で生まれる武士団 3. 朝廷と結び付く武士 4. 鎌倉を中心とした武家政権 5. 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化</p>	<p><b>知</b> 鎌倉幕府の成立などをもとに、武士が台頭して、主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p><b>思</b> 武士の政治への進出と展開や貴族の政治との違いに着目して、武家政治の特徴を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代から中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>主</b> 武家政治の成立とユーラシアの交流について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	武士の世の中
1	武家政権の内と外 5時間	<p>①元寇がユーラシアの変化の中で起こったことなど、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解させる。</p> <p>②南北朝の争乱の中で室町幕府が成立し、武家社会が次第に大きな力をもっていったこと、日明貿易で銅銭が大量にもたされ、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことに気づかせる。</p>	<p>1. モンゴル帝国と蒙古襲来 2. 南北朝の内乱と新たな幕府 3. 東アジアの交易と倭寇 4. 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易</p>	<p><b>知</b> 元寇が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などをもとに、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p><b>思</b> 東アジアの交流に着目して、東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>主</b> 武家政治の展開と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	武士の世の中

<p>1 2</p> <p>人々の結びつきが強まる社会 6時間</p> <p>①農業など諸産業の発達や畿内を中心とした都市や農村における自治的なしきみの成立が、当時の社会の大きな変化であることや、それにともなって商品流通が活発化したことに気付かせる。 ②武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことを理解させ、この時代の文化の中に現代に結びつくものが見られることに気付かせる。 ③各地に戦乱が広まる中で戦国大名が登場し、自らの領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことや、下剋上の風潮など、社会全体が大きく変化していったことに気付かせる。</p>	<p>1. 室町時代を眺めてみよう 2. 技術の発達とさまざまな職業 3. 団結して自立する民衆 4. 全国に広がる下剋上 5. 庶民に広がる室町文化</p>	<p>知 思 主</p>	<p>農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしきみの成立、多様な文化の発展、応仁の乱後の社会的な変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>農業や商工業の発達に着目して、民衆の成長が社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>民衆の成長と新たな文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>今に伝わる室町文化</p>
<p>3</p> <p>大航海によって結びつく世界 4時間</p> <p>①ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きにともなって、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易がさかんになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつくられたことを理解させる。 ②新航路の開拓の背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結びつきに気付かせる。</p>	<p>1. ヨーロッパの変革 2. 大航海時代の幕開け 3. 東アジアの貿易と南蛮人</p>	<p>知 思 主</p>	<p>ヨーロッパ人来校の背景とその影響をもとに、近世社会の基礎がつくられたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>交易の広がりとその影響にちゃくもくして、アジアにヨーロッパが進出する中で、世界の交易の空間的な広がりが生み出され、日本とヨーロッパ諸国との接触が起こったことや、日本の政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察</p> <p>世界の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>戦国の世界から江戸の世へ</p>
<p>3</p> <p>戦乱から全国統一へ 5時間</p> <p>①織田信長が行った仏教勢力への圧迫や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気付かせる。 ②当時の对外関係として、東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などがあったことを取り上げる。 ③南蛮文化が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華・華麗な文化が生み出されたことに気付かせる。</p>	<p>1. 安土桃山時代を眺めてみよう 2. 信長・秀吉による全国統一 3. 秀吉が導いた近世社会 4. 戦国大名と豪商が担った桃山文化</p>	<p>知 思 主</p>	<p>織田・豊臣による統一事業とその当時の对外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつくられたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響</p> <p>統一事業について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>戦国の世界から江戸の世へ</p>

3	<p>武士による全国支配の完成 5時間</p>	<p>① 江戸幕府の支配のもと、大きな混乱のない世の中を迎えたことなど、中背から近世への転換の様子を中世の武家政権との違いに着目して考察させる。 ② 江戸幕府の成立と大名統制については幕府が大名を統制するとともにその領内の政治について責任を負わせたことに気づかせる</p>	<p>1. 幕藩体制の始まり 2. 朱印船貿易から貿易統制へ 3. 4つにしほられた貿易の窓口 4. 琉球王国とアイヌ民族への支配</p>	<p>知 思 主</p>	<p>江戸幕府の成立と大名統制、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに幕藩体制が確立したことを理解するとともに様々な情報を効果的に調べ、活用している</p> <p>統一政権の諸政策の目的に着目して、安定した社会が構築されたことなどを事象に相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>江戸幕府の成立と対外関係において賞の問い合わせながら「江戸幕府はどのように全国を支配したのだろう」という問い合わせを主体的に追求しようとしている。</p>
---	-----------------------------	--	---	----------------------	---

# 社会科 地理分野《第2学年》年間指導計画 (60時間分)

## 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

## 社会科 地理分野の目標

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、態は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準	小学校との関連	
6 11時間	日本の 地域的 特色	「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、①日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の自然環境に関する特色を理解する。②少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解する。③日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解する。④国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結びつきや日本と世界との結びつきの特色を理解する。⑤項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し、理解する。⑥日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付ける。⑦項目に基づく地域区分などに着目してそれらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。⑧日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という八つの資質能力を身に付ける。	1 山がちな日本の地形 2 川が作る地形と海岸や海洋の特徴 3 日本の気候 4 日本の様々な自然災害 5 自然災害に対する備え 6 日本の人口 7 日本の資源・エネルギーと電力 8 日本の産業 9 日本の交通網 通信網 10 日本の地域区分 11 章の学習を振り返り	知 思 態	日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の自然環境に関する特色を理解する。少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解する。日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解する。国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結びつきや日本と世界との結びつきの特色を理解する。項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し、理解する。日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付ける。⑦項目に基づく地域区分などに着目してそれらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付ける。項目に基づく地域区分などに着目してそれらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。という八つの資質能力を身に付ける。	・わたしたちの国土 ・わたしたちの生活と食料生産 ・わたしたちの生活と工業生産 ・情報化した社会とわたしたち ・わたしたちの生活と環境



# 社会科 歴史分野《第2学年》年間指導計画（45時間分）

## 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

## 社会科 歴史分野の目標

- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようする。
- 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、主は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準			小学校との関連	
4	武士による全国支配の完成	①江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換のようすを、中世の武家政治との違いに着目して考察させ、自分の言葉で表現させる。 ②江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付かせる。	1. 幕藩体制の始まり 2. 朱印船 貿易から貿易統制へ 3. 四つに絞られた貿易の窓口 4. 琉球王国とアイヌの人々への支配	知	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国などの幕府の対外政策と对外関係をもとに、幕府と班による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。		戦国の世から江戸の世へ(5年)、江戸の文化と新しい学問(6年)	
				思	統一政権の諸政策の目的に着目して、江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、安定した社会が構築されたことを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。			
				主	江戸幕府の成立と对外関係について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			
4 5	天下太平の中	①身分制のもとで、人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことに気付かせる。 ②農林水産業や手工業、商業などの産業や河川・会場交通、街道が発達したことについて、身近な地域の特徴を生かした事例を選んで理解させる。 ③藩校や寺子屋などの普及に着目して、人々の教育への関心の高まりに気付かせるとともに、学問・芸術・芸能などの地	1. 身分制の下での暮らし 2. 安定する社会と諸産業の発達 3. 各地を結ぶ陸の道・海の道 4. 上方で栄えた町人	知	身分制と農村の様子をもとに、幕府と藩による支配が確立したこと、産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。		江戸の文化と新しい学問(6年)	
				思	統一政権の諸政策の目的に着目して、江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、都市や農村における生活や安定した社会が構築されたことを考察するなどして近世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。			

		<p>域的な広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解させる。</p> <p>④近世の文化について、大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解させる。</p>	の元禄文化		<p>産業の発達と町人文化についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
5	社会の変化と幕府の対策	<p>①貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などをふまえ、近世社会の基礎が動搖していったことに気付かせる。</p>	<p>1. 貨幣経済の広まり 2. 繰り返される要求と改革 3. 江戸の庶民が担つた化政文化</p>	知	<p>社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめている。</p>	江戸の文化と新しい学問(6年)
				思	<p>社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それらの背景として百姓一揆が起きたことなど事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	
				主	<p>幕府政治の展開について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
11	欧米諸国における近代化	<p>①政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連づけて、アメリカの独立やフランス革命などを取り上げ、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て、近代民主政治への動きが生まれたことに気付かせる。</p> <p>②工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどにおける産業革命を取り上げ、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気付かせる。</p> <p>③産業革命の進展にともなって、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことを理解させる。</p>	<p>1. 市民革命の始まり 2. 人権思想からフランス革命へ 3. 産業革命と資本主義の成立 4. 欧米諸国の近代国家建設 5. 世界進出を目指す欧米諸国</p>	知	<p>欧米諸国における市民革命や産業革命をもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへの進出したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめている。</p>	明治時代の国造りをすすめた人々(6年)
				思	<p>工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、近代化の進展により欧米諸国がどのように変化したかを考察するなど、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	
				主	<p>欧米における近代社会の成立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
11	開国と幕府の終わり	<p>①欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、アヘン戦争後に幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的および社会的な影響を理解させ、それが</p>	1. 日本を取り巻く世界情勢の変化	知	<p>欧米諸国のアジア進出による中国の動き、日本の開国と貿易の開始による影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめている。</p>	明治時代の国造りをすすめた人々

		明治維新の動きを生み出したことに気付かせる。	2. 諸藩の改革と幕府の衰退 3. 黒船来航の衝撃と開国 4. 江戸幕府の滅亡	思 主	工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の中の市場や原料供給地を求めてアシアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 欧米における近代社会の成立とアシア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	た人々 (6年)
12	明治政府による近代化の始まり	①明治維新について、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していく政府や人々の努力に気付かせる。 ②富国強兵・殖産興業政策の下で政府が今日につながる諸制度をつくったことや、身分制度の廃止にも関わらず差別が残ったことに気付かせる。 ③欧米諸国から取り入れられた制度や文化の影響で、社会のようすや人々の生活が大きく変化したことに気付かせる。	1. 新政府による改革 2. 富国強兵を目指して 3. 文明開化と新政府の政策	知 思 主	明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響を考察するなど事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 明治維新と近代国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	明治時代の国造りをすすめた人々 (6年)
12 1	近代国家への歩み	①自由民権運動の全国的な広まり、政党の形成、憲法の制定過程などその内容の特徴を取り上げ、大日本帝国憲法の制定によって当時アシアで唯一の立憲制の国家が成立したことをふまえ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせる。	1. 新たな外交と国境の画定 2. 沖縄・北海道と近代化の波 3. 自由と民権を求めて 4. 帝国憲法の成果と課題	知 思 主	立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 議会政治や政治の展開に着目して、政治との関係や、現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 議会政治の始まりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	明治時代の国造りをすすめた人々 (6年)
1	帝国主義と日本	①国内の社会状況や国際情勢とのかかわりなどの背景をふまえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理	1. アジアの列強を目指して 2. 朝鮮を	知	条約改正、日清・日露戦争などをもとに日本の国際的地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	明治時代の国造りをすすめた人々 (6年)

		<p>解させる。</p> <p>②大陸との関係をふまえて、日清・日露戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。</p>	<p>めぐる対立</p> <p>日清戦争</p> <p>3. 世界が注目した日</p> <p>露戦争</p> <p>4. 塗り替えられたアジアの地図</p>	<p>思</p> <p>主</p>	<p>外交や戦争の展開に着目して、世界との関係や現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>た人々 (6年)</p>
1 2	アジアの強国 の 光と影	<p>①近代産業が飛躍的に発展して資本主義経済の基礎がたまたまことに気付かせる。</p> <p>②工業の発達などによって人々の生活が変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気付かせる。</p> <p>③伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気付かせる。</p>	<p>1. 近代日本を支えた糸と鉄</p> <p>2. 変わる都市と農村</p> <p>3. 欧米の影響を受けた近代文化</p>	<p>知</p> <p>思</p> <p>主</p>	<p>生活の変化や近代文化について理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>近代化がもたらした文化への影響に着目して産業発展が国民生活や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>近代産業の発達と近代文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>明治時代の国造りをすすめた人々 (6年)</p>

## 社会科 公民分野 経済 《第3学年》年間指導計画（30時間分）

### 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

### 社会科 公民分野の目標

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を、広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことの説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、主は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準		小学校との関連
10 11	経済のしくみと消費	身近な消費活動を中心に、経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目して市場経済の基本的な考え方について理解させる。 経済活動を活発にしていくための消費者の役割と責任を理解させるとともに、消費者の保護など消費者を巡る問題について、政府の取り組みなどを理解させる。	1. 経済活動のしくみ 2. 家計と消費 3. 変化する消費と流通 4. 契約と消費者問題	知	市場経済における価格には、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることを理解し、その知識を身に付けています。国や地方公共団体は消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために、消費者政策を推進する役割を担っていることを理解し、その知識を身に付けています。	・わたしたちの生活と工業生産
				思	経済活動や市場経済の意義について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。経済活動を活発にするための消費者の役割や責任について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・安全な暮らし・住みよいくらし
				主	経済活動や市場経済の意義について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習課題を解決しようとしている。個人の消費生活に関する諸問題に着目し、主体的に問題解決しようしたり、学習したことを自らの消費生活に生かそうとしている。	・わたしたちの生活と環境
11 12	企業と生産	現代の生産や金融のしくみや働きを理解させるとともに、経済を活発にしていくための企業の役割と責任について考えさせる。 その際、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の精神と関連づけて考えさせる。	1. 私たちの生活と企業 2. 企業の種類と株式会社 3. 企業の競争と独占 4. 働くことの意義と労働者の権利 5. 労働環境の変化と私たち	知	企業の生産活動に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・わたしたちの生活と環境
				思	企業の生産活動にかかわる様々な事象から課題を見出し、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働きかせて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
				主	企業の生産活動に関する諸問題について、主体的に問題解決しようしたり、学習したことを社会生活に生かそうとしている。	

		6. 企業の社会的責任				
1	市場経済と金融のしくみ	市場経済では財やサービスの取り引きが貨幣を通して行われていることを理解させるとともに、市場価格にはさまざまな決まり方があることを踏まえ、市場価格決定のしくみについて考察させる。金融の役割や日本銀行の役割について、多面的・多角的に考察し、表現させる。	1. 市場経済と価格の働き 2. お金の役割 3. 金融のしくみと働き 4. 日本銀行と金融政策	知 思 主	市場経済のしくみや価格の働きについて理解している。金融の役割や日本銀行の金融政策について理解している。 市場経済における価格決定のしくみ、金融の役割、日本銀行の金融政策について、さまざまな資料を基に課題を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 通貨や金融に関する新しい動きについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	・わたしたちの生活と環境
1 2	財政と私たち	社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実、安定化について、それらの意義を理解させる。また、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解させる。市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	1. 私たちの生活と財政 2. 国の支出と収入 3. 社会資本と環境保全 4. 社会保障と少子高齢化 5. これからの日本の財政	知 思 主	社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実、安定化について、それらの意義を理解する。また、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。 市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。また財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	・わたしたちの生活と環境
3	日本経済の課題とこれから	「現代日本の特色」についての学習と関連付けながら、グローバル化の進行により、日本経済が世界経済の影響を強く受けていることを理解させるとともに、これからの日本経済の発展のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現させる。	1. 安定した経済成長へ 2. グローバル化と日本経済 3. これからの日本経済	知 思	景気変動のしくみや日本銀行の役割などに着目して、日本経済の特色を理解するとともに、グローバル化や経済活動のデジタル化が進む中、日本経済の課題について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	・わたしたちの生活と環境

				主	グローバル化や経済活動のデジタル化が進行するなか、日本経済に見られる課題について、主体的に問題解決しようとしたり、学習したこと を社会生活に生かそうとしたりしている。	
--	--	--	--	---	---	--

# 社会科 公民分野 政治・国際社会 《第3学年》年間指導計画 (70時間分)

## 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

## 社会科 公民分野の目標

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を、広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことの説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、主は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準		小学校との関連
4	現代社会の特色	情報化、グローバル化、少子高齢化が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について、①や空間的な広がり、推移や変化などの見方・考え方を働きかせて、多面的・多角的に考察し、表現させる。	1. 私たちと持続可能な社会 2. 情報化が進む現代 3. グローバル化が進む現代 4. 少子高齢化が進む現代	知	現代日本の社会では情報化、グローバル化、少子高齢化など変化がみされることを理解し、その知識を身に付けています。	・わたしたちのまちのようす ・情報化した社会とわたしたち ・世界の中の日本
				思	情報化、グローバル化、少子高齢化が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について、位置や空間的な広がり、推移や変化などの見方・考え方を働きかせ、多面的・多角的に考察し、表現している。	
				主	情報化、グローバル化、少子高齢化に関する事象を身近なところから見つけ、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え学習したことと社会生活に生かそうとしている。	
5	私たちの生活と文化	現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、文化の継承と創造の意義について、位置や空間的な広がり、推移や変化などの見方・考え方を働きかせて、多面的・多角的に考察し、表現させる。	1. 生活に息づく文化 2. 日本の文化とその継承	知	我が国の伝統や文化に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に読み取ることを通して、その意義や影響を理解し、その知識を身に付けています。	・わたしたちのまちのようす ・情報化した社会とわたしたち ・世界の中の日本
				思	現代社会における文化の意義や影響、文化の継承と創造の意義について、位置や空間的な広がり、推移や変化などの見方・考え方を働きかせて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
				主	わが国の伝統や文化について、自分の体験や身近な事例と結びつけて生活とのかかわりを考え、文化の継承と創造に積極的にかかわろうとしている。	

5	現代社会をとらえる枠組み	対立と合意、効率と公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、①現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。②社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。③現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	1. 社会的存在として生きる私たち 2. 効率と公正 3. 私たちときまり	知 思	現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。	・かわって きた人々のくらし ・郷土の発展につくす ・わたしたちの東京都 ・わたしたちの生活と食料生産
6	民主主義と日本国憲法	法に基づく政治の大切さについて、対立と合意、効率と公正、個人の尊厳と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現させる。	1. 民主主義と立憲主義 2. 人権保障と法の支配 3. 日本国憲法の成立と特色 4. 日本国憲法における国民主権 5. 日本の平和主義	知 思 主	法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法の原則、天皇の地位と国事行為について理解し、その知識を身に付けている。 民主的な社会生活にかかわる様々な事象から学習課題を見出し、対立と合意、効率と公正、個人の尊厳と法の支配、民主主義などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、表現している。 民主的な社会生活にかかわる様々な事象をもとに、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	・住みよいくらし ・私たちの生活と政治
6 7 8	基本的人権の尊重	基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方を理解させるとともに、日本国憲法で基本的人権が保障されていることの意義について、多面的・多角的に考察し、表現させる。	1. 個人の尊重と憲法上の権利 2. 自由権 3. 平等権と差別されない権利 4. 平等権の実現に向けて 5. 社会権 6. 人権を守るためにの権利と制度 7. 広がる人権の考え方 8. 情報社会と人権 9. 公共の福祉と国民の義務	知 思 主	基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方を理解し、その知識を身に付けている。 基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方と法との関連について、個人の尊重の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 人間の尊重についての考え方を踏まえて、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	・住みよいくらし ・私たちの生活と政治

8 9	法の支配を支えるしくみ	最高法規である日本国憲法に基づいた政治によって国民の自由と権利が守られていることを理解させる。	1. 権力の分立 2. 憲法の保障・改正と私たち	知 思	・住みよ い暮らし ・私たち の生活と 政治
9	民主政治と私たち	個人を尊重し、基本的人権を守る政治を実現するためには、公正な世論の形成や選挙など、国民の政治参加と国民の意思を国政や地方の政治に十分反映させることが必要であることを理解させる。	1. 民主主義と政治 2. 世論とメディア 3. 政党的役割 4. 選挙制度とその課題	知 思 主	・住みよ い暮らし ・私たち の生活と 政治
10 11 12	国の政治のしくみ	国会を中心とする我が国の民主政治のしくみのあらましや政党の役割、法に基づく公正な裁判の保障について理解させる。	1. 国会の役割としくみ 2. 国会の審議と課題 3. 内閣の役割と議院内閣制 4. 行政の役割と課題 5. 私たちの生活と裁判 6. 法の支配と司法	知 思 主	・住みよ い暮らし ・私たち の生活と 政治



# 社会科 歴史分野《第3学年》年間指導計画（40時間分）

## 社会科 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

## 社会科 歴史分野の目標

- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようする。
- 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

知は知識・技能、思は思考・判断・表現、主は主体的に取り組む態度

月	単元名	指導目標	学習内容	評価規準			小学校との関連
4	第一次世界大戦と民族独立の動き	ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことに気付かせるとともに、日本の参戦、ロシア革命なども取り上げて、世界の動きと日本の関連をふまえて、大戦がその後の国際情勢および日本に大きな影響を及ぼしたことに気付かせる。国際連盟の成立、中国や朝鮮、インドにおける民族運動の高まり、軍縮条約の締結を取り上げ、日本がどのように対応したかを理解させる。	1. 第一次世界大戦の始まりと総力戦 2. 第一次世界大戦の拡大と日本 3. 第一次世界大戦後の欧米諸国 4. アジアの民族自決と国際協調	知	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きをもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめていく。		世界に歩み出した日本
					世界の動きと日本の関係に着目して、第一次世界大戦による世界の変化や影響を考察するなど事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。		
				主	第一次世界大戦前後の国際情勢について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
5	高まるデモクラシーの意識	国民の政治的自覚が高まり、本格的な政党内閣による政党政治が展開したことに気付かせる。大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化などを取り上げ、文化の大衆化が進んだことを理解させる。	1. 護憲運動と政党内閣の成立 2. 社会運動の高まりと男子普通選挙の実現 3. 近代都市に現れた	知	国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化をもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめていく。		世界に歩み出した日本
					世界の動きと我が国の関係に着目して、第一次世界大戦による日本社会の変化や影響を考察するなど事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。		

			大衆文化		第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
6	戦争に向かう世論	世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化、日本における経済の混乱と社会不安の広がりを取り上げ、政党政治が行き詰まりをみせ、軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したこと、国際連盟を脱退した日本がドイツと組んでアメリカやイギリスと対立を深めたこと、中国との戦争が長期化した経緯を理解させる。	1. 世界恐慌と行き詰まる日本	知	経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦がはじまるまでの日本の政治・外交の動きなどをもとに、軍部の対等から戦争までの経過を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめている。	長く続いた戦争と人々の暮らし
			2. 欧米諸国が選択した道		経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化に着目して、二度目の世界大戦が起こった背景を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
			3. 強まる軍部と衰える政党	思	経済の世界的な混乱と社会問題の発生などについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
6	第二次世界大戦の惨禍	日本がドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカ、イギリス、ソビエト連邦などと対戦になったこと、日本が多くの国に対して多大な損害を与えたこと、日本の国民自身も大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる。戦時体制下で国民の生活がどう変わったかについて、身近な地域の事例を取り上げ、平和な生活を築くことの大切さに気付かせる。	1. 第二次世界大戦への道	知	第二次世界大戦中の日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民の生活などをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	長く続いた戦争と人々の暮らし
			2. 太平洋戦争と植民地支配の変化		世界の動きと日本との関連に着目して、二度目の世界大戦が起こった理由やその理由やその戦争の影響を世界的な視野で考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
			3. 戦局の悪化と戦時下の暮らし	思	第二次世界大戦と人類への惨禍について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	敗戦から立ち直る日本	戦後の混乱のなかで、国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に、大きな改革が次々に進められ、国民が苦難をのりこえて新しい日本の建設に努力し、現代の日本の骨組みが形成されたことに気付かせる。日本国憲法の基本的原則からその歴史的意義を読み取らせる。戦後の混乱や生活のようす、国民の努	4. ポツダム宣言と日本の敗戦	主	日本の民主化と再建の過程、冷戦などをもとに、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	新しい日本、平和な日本へ
			1. 敗戦からの出発	知	諸改革の展開と国際社会の変化に着目して、諸改革が日本の社会に及ぼした変化や冷戦体制下の日本と世界とのかかわりについて考察するなど事象を相互に関連付けるなどして現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
			2. 新時代に求められた憲法		日本の民主化と再建の過程、冷戦などをもとに、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	
			3. 冷たい戦争とその影響	思	日本社会に及ぼした変化や冷戦体制下の日本と世界とのかかわりについて考察するなど事象を相互に関連付けるなどして現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	

		力について、身近な地域などの具体的な事例をもとにとらえさせる。 ④冷戦について、国際連合の発足、米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、日本の動きと関連させながら理解させる。		主	日本の民主化と冷戦下の国際社会について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
8 9	世界の多極化と日本の成長	日本が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰するまでの経緯を理解している。 日本の産業・経済や科学技術の著しい発展とそれとともに生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、および石油危機が政治や経済に及ぼした影響などに気付かせる。 沖縄返還、日中国交正常化などを取り上げ、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解させる。	1. 日本の独立と世界の動き 2. 冷戦下での日本と 3. 経済成長による日本による日本変化 4. 日本の社会と国際関係の変化 5. 大衆化・多様化する戦後の文化	知 思 主	高度経済成長、国際社会とのかかわりなどをもとに、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 政治の展開と国民生活の変化に着目して、国民生活への影響と国際平和の実現への努力について考察するなど事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 日本の経済の発展について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	新しい日本、平和な日本へ
10	これから日本の日本と世界	世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことやその影響に気付かせ、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助などもふまえ、国際社会において日本の役割が大きくなつたことを理解させるとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識を持たせる。 冷戦終結後も国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国家を超えた地域統合、地球環境問題とその取り組み、資源やエネルギーをめぐる課題など主権や人権、平和などさまざまな課題が存在していること、それらを解決するための人々の努力が重ねられていることに気付かせる。	1. グローバル化が進む世界 2. 激変する日本とアジア 3. 国際社会におけるこれからの日本	知 思 主	冷戦の終結をもとに、国際協調の平和外交の推進、開發途上国への援助などもふまえ、国際社会においてわが国の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 政治の展開と国民生活の変化に着目して、国民生活への影響と国際平和の実現への努力について考察するなど事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 グローバル化する世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	新しい日本、平和な日本へ